

◇ 第1回『みなとまちづくり研究会』パネルディスカッション ◇

《メンバー》

1	稚内港	横澤 輝樹	みなとまちづくり懇談会 会長
2	小名浜港	鈴木 泰弘	小名浜まちづくり市民会議 専務理事
3	魚津港	美谷 隆一	(株)魚津シーサイド 代表取締役社長
4	三河港	小林 憲三	みなとオアシスがまごおり運営協議会 会長
5	相生港	東 弘昌	相生市役所 建築経済環境部 参事
6	瀬戸田港	長澤 宏昭	NPO せとだ港房 代表
7	久礼港	江崎 太市	土佐久礼みなと夢の市実行委員会事務局
8	唐津港	小島 起代世	からつ夢バンク 代表
9	コメンテーター	水谷 誠	国土交通省港湾局振興課民間連携室長
10	コーディネーター	橋間 元徳	社団法人ウォーターフロント開発協会 専務理事

橋間 これから意見交換会に入ります。フロアの方も含めてディスカッションしていただきます。幸いフロアでもほとんどの方が実に熱心に聞いてくださっていきましてありがとうございます。またパネラーの方には、本当に短時間での確なご説明をいただきました。

東 相生市の東です。小名浜の鈴木さんにぜひお聞きしたいんですけども、年間延べ40件、120日のイベント事業実績ということですね。この数字だけで驚愕しているんですけども、市民の巻き込み方というところをお聞きしたいんです。

鈴木 巻き込み方といいますか、以前から小名浜というところは、民間人というか市民で、我々の諸先輩がかなりいろいろなことをしてきた地域です。

我々も市民会議を立ち上げて、まず活動の指針と小名浜の総括的な計画になる、まちづくりのグランドデザインをつくりました。これは、いわき市と「まちづくり

パートナーシップ協定」を結びまして、そこで作ってきた計画です。そのときも、メンバー以外にも「ワークショップに参加しませんか」といろんな形で声をかけました。例えばPTAの役員がメンバーにいれば、PTAのお母さん方に声をかけるとか、子供たちに声をかけるとか。また老人の集まりがあれば、そういったところで声をかけてきていただくとか、いろんな形で声をかけました。毎回100人を超す人たちにご参加いただいて、ワークショップを展開してまいりました。これを2年ぐらい、毎週1回ずっと続けてまいりました。底辺の拡大というか裾野の拡大というか、そんな形でスタート時に活動してきた成果がこういった形で結びついてきたのかなという感じを受けております。

東 どのぐらい核となるメンバーはおられるのでしょうか。

鈴木 コアメンバーは30人ぐらいです。会長、事務局長、私、専務以下、各委員長が毎週1回木曜日のお昼に、ヘッドクォーター会議という総括的にコーディネートする会議を続けています。それを軸に動かしているという感じです。

橋間 小島さん、何か質問はございませんか。

小島 私も鈴木さんに伺いたかったので（笑）。いま大分聞かれましたが、コアメンバーの30名の方の職種というのですか。毎週1回集まるだけでも大変だと思いますが、どういう方たちがコアメンバーなのですか。

鈴木 コアメンバーはほとんど地域の会社の経営者です。青年会議所のOBがうちの主流です。自己鍛錬は青年会議所である程度培ってきたので、今度は地域にそれを反映している形です。やってみると、それほど大変じゃないですよ。昼に大体1時間ぐらい。昼飯はみんな必ず食べますので、我々の拠点である事務局に集まって店屋物を食べながらいろいろ話をする。やってみるとどうにかなるという、そんな感じであります（笑）。

小島 事務局は専従の事務所を持っていてということなのですね。

鈴木 事務所は、銀行の跡地を借りています。市民会議の関係している28団体でそれぞれお金を出し合っています。事務局員は男性1人と女性2人を常時雇用しています。みなとまつりのこと、商業関係の団体のこと、うちの市民会議のこと、まちの仕事はすべてそのメンバーが担うという形で、事務局と建物を管理する仕組みをとっています。

橋間 確かに小名浜には聞きたいことがたくさんあると思いますけれど、それぞれの皆さんも小名浜に負けない、「おれはこうやった」というのがあると思います。ほかの方でもいいですけど、参考になるような意見はないでしょうか。

小島 ここで一番古くみなとオアシスをされたところで、「これはやっぱりまずいぞ」という問題があったら教えていただきたいのです。私たちも、いいとこ取りしたいと思っていますので。

橋間 古い方はどなたですかね。

長澤 うちの制度初期段階のときから入っていて、全国で1号認定をとったのですけれど

ども、まずいぞというのは、自分たちの意識の低下じゃないでしょうか。

最初のころは結構やる気があったのですが、地域が田舎なのでやっているスタッフがどうしてもだんだんと高齢化で。先ほど J C の O B の方が中心という話でした。うちらは商工会の青年部もいますけれども、一人親方みたいな会社がたくさんあって。一生懸命やりますけれども、自分が抜けると会社の仕事が回らないような人がいます。定年された方とか退職された方の力をもっと入れたいというところはありませんけれども、ゆっくりさせてくれだとか、なかなかうまいことそういう方を今は取り入れられていないのが現状です。メンバー的にも高齢化になってきて、若手がないというのが問題点かなというところです。

橋間 ほかにアドバイスはありませんか。

横澤 稚内の横澤です。稚内では協議会で運営していますけれども、協議会でやっていると、いろいろな市民団体が当然入ってくると思います。その主要メンバーは、ほかの団体とダブっている場合があるじゃないですか。そこがすごく大変ですけれども、その辺の問題はどういうような形でクリアなさっているのか、それともクリアできていないのかということをお聞きしたいのですが。

橋間 どなたか。

東 相生市の場合はクリアできていないほうで、まだ協議会というところまでいっていないです。先ほども言いましたように海の駅、道の駅の延長としましてみなとオアシスを立ち上げたという経緯があります。そのほかにもう一つ言えば、「西播磨（なぎさ）回廊づくり」という連絡会がありますけれども、その連絡会のメンバーがほぼあらゆる会員のコアになってしまう。頼むというとな変なのですけれども、お仕事をしている方が多いですからご負担をかけます。今日まさに私も成功例を伺いたいと思っているんです。いま私が鈴木さんに聞いたように、市民をいかに巻き込んでいくか、これに尽きると思っています。今日はそれをつかんで帰りたいなと思っております。成功された例のところはありますか。

橋間 クリアされていないというふうに控えめにおっしゃいましたが、相生も成功されていると思いますが、どなたかアドバイスできる方は。

小島 成功するかどうかはこれからですけれども。少なくとも「唐津みなとまちづくり懇話会」のメンバーは私のようなボランティアグループ、九電さん、魚市場の社長さん、一級建築士さん、地元の駐在員さん、海上保安庁さんという異色のメンバーに、国、県、市が事務局を持ち回りでやっています。例えば松の木を植えるという話一つにしましても、国、県、市が同時に同じテーブルで話しますのですごく速いのです。国、県、市と民間人がいて、ほかにアドバイザーとして九州大学の先生とか木の専門家に来てもらっています。

集まりは大変出席率がよくて、大体 14 名です。プラス国からも何人かいらして、県からも市からもいらっしゃるので、いつも 17～18 人ぐらいです。話し合いをするのは 6 人が中心で、あとは事務局です。私が座長ですから、次に宿題を出すと必ず

まじめにやってきてもらえます。月に1回の集まりをしていますけれども、進むのが非常に速いというメリットがあるので、これはお勧めです。コアの人数が少なくても、いい人たちばかり集まると物事が速く進みます。中身はどうであれ、話し合えるメンバーがいる、頼りになる人がいるというのが強みです。何でもやれるという勢いがあるのはこういう人が周りからだと考えています。

橋間 コアメンバーという話も出てきましたけれど、今の小島さんの話を聞いていると、座長がいいからじゃないかという気がしますが、どうですか、皆さん。

小島 私もそれを言いたかったんです（笑）。

鈴木 今のご質問の話ですけれど、我々も結局はコアメンバーがいろいろ何役もやっていることだけは間違いないです。ただ、そのコアメンバーも、やはり自分の企業もありますし家庭もありますので大変は大変なんです。諸先輩方から、「忙しい人間が忙しい仕事を若いうちにやらないと、おまえらろくな者にならないぞ」ということだけは言われています。一つはプライドというか、そういうところでやっていることは間違いなくあります。

あとは、これがいいかどうかわかりませんが、こういう活動を長年やっていると、行政からも民間のほかの団体からも話がいろいろ持ち寄られてきます。自分たちの力ではこのイベントは回せないんだけど、何かノウハウはないかとか、一緒にやってくれないかという話がいろいろ来ます。そこで例えば漁港のごみを一緒に拾おうじゃないかという小さい話もありますし、小名浜港のアンコウと一緒にPRしてくれという漁協とか旅館組合の話もいっぱい来ます。

そこで、我々がそういういろんな団体のところに向向いて行って、彼らの目線で、彼らと同じ仕事をしてあげていますと言うと語弊があるんですが、やらせていただいています。そういうことをすることで、市民会議のネットワークがさらに広がっているかなと思っています。何か我々が仕掛けようとするときに、そういった方に逆に協力していただけるというケースもあります。メンバーではなくても、何かの機会に我々の活動を知った人が、コアメンバーまでは至りませんが手伝ってくれるということがあります。人の目線で仕事をしてやる、だれかの面倒を見てやるという極めて日本的な話ではありますが、そういったのを広げていくとネットワークはかなり広がるんだなと最近思っています。

橋間 本当に小名浜の事例は参考になると思いますけれども、小島さんのメンバーも大したもの、民、官、学者が良く連携されていますね。

コアメンバーとか座長という話がありましたけれども、それをさらに支えるベースがありますね。今日もメンバーを見たらわかりますけども市役所の方と民間の方がおられますね。多分、市役所から来られている方は、このオアシスを基本的に市役所が支えているような気がするし、民間の代表で来られている方は民間が支えておられるんじゃないかなという気がします。市が支えているところは、みなとオアシスの活動も非常に範囲が広いような気がしましたね。

小林 三河港の蒲郡なんですけど、うちのみなとオアシスはかなり皆さん方と性格が違うかなと思っています。みなとオアシスで運営協議会を組織しているわけなんですけど、これで何かつくろうとか、これで何かやろうとかそういうことは全く考えていません。みなとオアシスという場で、伊勢湾台風で海岸線がかなり大きな被害を受けて、海から遠ざかってしまった市民を海に近づけようと。その環境づくり、場づくりをやりたいなど。あとは、それぞれの民間団体とか、いろいろなところが動いていただければいいのかなと。

小名浜さんとか魚津さんのような話は、うちはラグーナ蒲郡がやっていると思っております。同じことをやってもしょうがない話で、ちょっと違った、それぞれの持ち場というのがあります。蒲郡のみなとオアシスはあくまで場の提供という形でいきたいと思っております。そういう意味では、運営協議会は公がないとどうにかなってしまうというのではなくて、いかに活動する市民団体をふやしていくかを主眼でやっております。

橋間 市役所の立場が良く表れているように思います。魚津は株式会社という形で、まさに民でやられていますね。場の提供という意味からいうと少し違う意見ではないかと思えますけれども、いかがですか。

美谷 私どもがみなとオアシスのお話を聞いたのは、あくまでもこの施設を立ち上げてからのことです。市のほうからこういう制度がありますよと、どうでしょうかと、登録申請をやりましょうというお話をいただいたわけなんです。私どもは、この施設をつくることイコールみなとオアシス、に結果的になったという認識でおります。

ただ、それをとらせていただいた以上は、その制度をこれから利用させていただきたいという思いでおります。今までみなとの周辺の施設は連携があまりなされていなかったのを、この機会に連携をとりながらPRしていこうというムードには確かになっているかと思えます。

橋間 これまでの意見の中で、いかに人を集めるかとか、事務局がどうかという話がありましたけれども、やはり民でされるにしても、公で支えているにしても人を集めないといけません。特に民でなされる場合には経営として成り立たないといけませんから、いろいろ大変かと思えます。

美谷 私どもは民間の会社であるということが、今お集まりの皆さん方とは非常に違う点だと思います。民間の場合は必ず利益を上げなければいけないというのが最終命題であります。市民の方が株主である以上はもっと大きな負担といえますか、プレッシャーがかかっているわけです。私は、まず財布からお金を出して投資するという気持ちになってもらうことが、いま振り返ってみると一番大変だったなと思えます。

だれしもが思うことですが、設立してすぐに利益は出ません。これを利益を出せと言うほうが、まず民間の考え方とすれば無理だと思います。しかしながら、最終的には利益を生むというビジョンを市民の方に提示することが大事ではないかと思

います。そのビジョンを明確に市民の方に提示して、それを一緒にやっていただくというのが、いま出ているような連携、協議会であると。民間の企業とすれば、かみ砕くとそういうことになるのではないかなと思います。

私どもは、数字的なことを言えばまだまだ累積の赤字は持っていますが、着実に単年度の黒字の数字は伸ばしているつもりでおります。全く民間でありながら行政の力も借りる。施設の運営においても、例えば場所が埋立地であるということで、私どもがその土地を買うことはできませんでした。その部分は行政の人をお願いして協力していただいております。そういった面を広く応援してもらうことによって、私どもがやりやすい状態に行政にも後押しをしていただいております。それが市民の後押しにもつながっています。逆のことも言えます。市民が後押ししてくれるから、行政も後押ししていただいていると。これが両方うまくかみ合っている状態が、今の私どもの施設の運営ではないかと思っております。それが縁で次の運動が地元にも少しずつ定着しております。指定管理者ではない、純然たる民間の企業がまちのために運営していくことが、振り返ればまちの活性化につながっていくということではないかなと思います。

橋間 イベントホールは公的な施設ですか。

美谷 いや、これも民間の施設です。だれでも自由に借りられますし、いろんなイベントを開催できるようになっています。

橋間 それにしても何で1億円も集まったんですかね。ちょっと信じられないんですが。

美谷 集めている本人も、1億円が集まるなんて思ってもいなかったんです。ただ、いろんな人にこの計画を話したときに、当時の計画では、まず運営は無理だぞということ言われて、私自身も危機感を持ちながら、これをどうやって乗り切るべきか非常に悩みました。その中で一つヒントをいただいたのは、静岡県等が中心でJリーグのサポーターをしているというお話です。市民の力でチームを応援しているのを、何とか施設を運営する側に協力がもらえないものかという提案をしてくださる方がおられました。その方法をこの施設の立ち上げに利用させていただきました。

言葉で言えばたったこれだけのことなんですが、その気持ちをいかに市民に伝えるかというのが一番大事なところでした。ただ、市民の思いと私どもがやりたいという思い、そして行政を巻き込んでやりたいという思い、この三つの思いが一つになることが一番大事なことではなかったかと思えます。1口5万円で集めたわけですが、一般の方にそれこそ財布から5万円のお金を持ってきていただけるということが、私は今でも信じられない気持ちでおります。中には自転車で持ってこられた方もおられますし、私も幾つかの会場を回って、この立ち上げのお話をさせてもらったこともあります。その会場でお金を出資したいという申し出をいただいたときもありました。

株主の数だけでいいますと個人のほうが多い株式会社です。集める中でのエピソードですが、最後をお願いした社長さんから、「あと幾ら足りないんだ」とうれ

しい言葉をかけてもらったこともございます。ただし私はそのときに周りの様子もお話しして、1人だけに突出した出資をいただくことはご遠慮させてくださいというふうに、そういう意味で断った場面もありました。これは市民が手づくりでつくる施設なので、1人の人が目立つような施設にしてもいけないのではないかと思います。金額を多く出してもらう方を、お断りと言うと語弊がありますが、1人だけが多く出すのではなくて、5万、10万の出資者がたくさん集まるような会社にしたということによって立ち上げました。結果的には、正確に言いますと9750万円の出資金を集めてスタートすることができました。

橋間 大変ご苦労だったでしょう。貴重なご意見をありがとうございました。

仮登録ということで久礼港は随分遠慮されているようですけども、地元に対する思いは一番伝わったような気がしましたけれども、何か。

江崎 稚内の横澤さんに一つお伺いしたいんです。お名刺をいただいたときに「あ、議会の人や」と思いました。議員さんというお立場とみなとまちづくり懇談会の会長と、議会の方がその先頭に立ってこういうことを進めるのはすごいなと正直思ったんです。実際にそういう雰囲気には稚内というところ自体があるのかということと、ご自身が入っているということで、予算をとる上で特にソフト面で何かいいことがあったのかどうか、ちょっと教えていただきたいと思います。

横澤 今は議員をやっているんですけども、去年が選挙でした。みなとまちづくり懇談会は平成16年に立ち上げたんです。積極的な活動として市民が動いているかと言われると、そうでもないです。ここにいる皆様方そうだと思うんですけども、一生懸命やっている方と、そうでない方とやっぱりあると思うんです。一生懸命やっている方は本当に一生懸命やっているんですね。ただ、稚内市としてそれがひとり歩きしている状態ではありました。

私自身が確かに立場的にそういう形になったというのも、その一つになるのかもしれませんが、理解はされやすくなりましたね。特に行政、市とのつき合い方が変わってきたかなというのは正直あります。ただ、予算についていいことがあったかというところと全くないです。それをやる気はないです。そこをやってしまうと、また公私混同になってしまうという部分があります。

ただ、議員になる前からのおつき合いをずっと行ってきていますので、それについての情報だとか、先ほど小島さんからお金を引っ張るための方策を探しているという話が出ていたんですけども、そういうことについても行政とのつながりを最初に持ちました。いろんな活動を一緒に、それこそ先ほど鈴木さんも言われますけれども、ごみの清掃ですとか、イベントですとか、ほかのPRですとかもやっていたんです。そういう経緯もありまして、行政側から「こんなものがあるよ」といろんなところから情報が集まるようにはなっていました。議員がどうのこうのというよりも、現状こういう補助制度があるよということは教えていただいています。イベント等に関しましては、何とかそれでやりくりできる状態にはなっています。

これが答えになっているかどうかは別として、私からも逆に江崎さんに質問したかったんですが。先ほど、商売ということで持っていきたいという話をこの中で唯一していただいて、私もそう思っているんですよ。今後、どういう形で商売に結びつけていきたいのかをお聞きしたいのと、これは皆様にもご質問したいんですが、商売を考えた上で、今のところであればエリアでの商売だと思うんですよね。そのエリアを今度は広げていって、今ここにいるメンバー、ここにいらっしやっていないメンバーが、どういう形で広域的な連携を結んでいくのがいいのか、何か案があれば一言いただければありがたいんですけども。

江崎 先に、商売ということですが、どこでもやっていることですが、水産物の直売をまずは漁業組合に求めたんです。でも正直、結果的にはうまくいきませんでした。どうしても漁業者というのは、うちの場合が特にそういう傾向にあったと思うんですが、市場に揚げてもうおしまい。そこから先の商売は別の商売人がやることだと体で覚えてしまっています。最近になってみんなでシフトしていこうと。漁業者は魚を揚げてくれるだけでいい。そこから先は自分たちが一生懸命やるから協力してくれと。そういうふうな形でやっていこうと、つい最近話し合いました。そこから先はまだこれから頑張っていきたいと思っていて、具体的にどうしようかというのは決まっています。そんなところです。

橋間 あと時間が5分ほどになってまいりました。パネラーの方の意見交換が白熱していきましてフロアから意見を聞く機会がありませんでした。フロアの方から何かご意見なり、質問なりはどうですか。

小島 肇 内閣府沖縄総合事務局から来ました。沖縄はまだみなとオアシスの制度がないので、今まさに検討しているところなんです。本日の資料の中に、横澤会長からもありましたけれども、連携したいというようなお言葉がありました。このような場で意見交換するのもその連携の一つだと思うんですけども、もう少し具体的に、一緒にイベントをやりたいとか何か考えていることがあれば教えていただきたいというのが1点です。

もう一点、相生市さんにお聞きしたいんです。相生市さんは道の駅、海の駅とダブル登録されていますが、別の仕組みとの連携は何かされているのかということですが。連携という切り口で2点お伺いしたいと思っております。

橋間 相生市さん、どうぞ。

東 まず、確かにダブル認定になっております。相生の3地区をパネルで説明したんですけども、特に那波地区が先導的な役割を果たしております。道の駅、その次に海の駅と認定を受けています。那波地区は中心的な役割を持っているということで、そこそこ賑わいが出ているんです。特に一番大きいのは、那波地区に関しては民間の経営になっています。ここも一つの大きな起点になります。ああいうもっと雑多な雰囲気やろうというアイデアは、やはり民間の方から出ております。行政は、どうしてもきれいに整然とやっていこうと、形から入っていこうというところ

があるんです。テントだったら、ふえるままにふやしていけるんですね。出店したい人が出てくると。

要は、みなとオアシスに登録させていただいた市長の一番のねらいは、2番目の相生地区に賑わいを創出するということです。距離的にはほんの2〜3キロですから点が面になります。そういうことで、至上命令なんです。相生地区をいかに活性化させるかというのに、相生市は正直言いまして命運がかかっているんです。埋立地で、相生である程度の広さの土地を持っているところはそこしかないんです。

だから、連携してみなとオアシスと道の駅、海の駅が何かやっているとかはなくて、道の駅、海の駅の成功した例をみなとオアシスに持ってきて、特に相生地区を、今おっしゃったように商売的に成功するようにしたいのです。確かにもうからないとだめです。市民の方は動きません。汗だけでは、充実感はあるんですけども長続きしない。相生はまさに実感しています。的確な答えになっておりませんが、それでもよろしいでしょうか。

橋間 道の駅なんかとの連携と同時に、オアシス同士の連携ということが課題に何か所か出されていましてね。九州では連携されているという唐津の話もありましたけれど、オアシス間の連携について小島さんあるいはほかの方、コメントをいただけますか。

小島 まだ、したいと思っているだけです。この前大分のかんたん公園に行かせていただきました。私、まちおこしで九州地域づくり会議というのを主催して持ち回りでやっています。九州は各地区に知り合いが多いので、うまくできるんじゃないかな、今年はやるぞと勝手に思っているわけです。まだ決まっていませんけど、できれば内閣府のお金がおりたらそれを使いたいなど。いろんなところから、いろんなものを持ってきてやりたいと思っているところです。

ついでに先ほどの連携について、唐津ではオアシスをゾーニングしています。フェリー乗り場のところが中心です。ほかには魚市場の立て直し計画があるゾーン、漁業の部分や生産ゾーンなどがあります。フェリー乗り場との連携とか、道とか、植樹をどうするかとか、ここは緑だけでも、次は物流でどうなるのか、それぞれのゾーンの部会ごとに話し合った中身を懇話会全体ですり合わせしたいということです。

ゾーニングは大変なんですけれどもかけ持ちができます。私は唐の津ゾーンの部会長ですけども、海路ゾーンで例えば棧橋をつくりたいとなると、そういう話も情報として入ってくるわけですね。ですから、横のつながりがあれば結構動きやすいという感じがいたします。

橋間 ありがとうございます。予定の時間がオーバーしたところですけども、これまでの説明の中で課題をいろいろおっしゃった方がおられました。時間がなくなってまいりましたので、課題については、次回にもう少し議論できればと思います。

そういうことも含めまして総括的に、今のディスカッションを受けてコメント

ターとして水谷さんに、最後の締めくくりをお願いします。

水谷 今日は全国8カ所のみなとオアシスの方に来ていただきまして、大変ありがとうございました。どこのみなとオアシスも、歴史も違えば、みなとの大きさも違えば、コンセプトも違う、運営主体も違うということで、全体を一つに総括することはできませんけれども感想めいたことを言いたいと思います。

まず、どこのみなとでも、みなとオアシスが人流の拠点、賑わいの拠点となっていて、みなとの核になっているなど非常にうれしく思いました。また、皆さん感じられていると思いますけれども、今日来られている皆様方はどなたも地元ですばらしいリーダーの方だろうと強く思いました。やはりこういった地元を引っ張っていただけるようなリーダーの方がいらっしゃることが、地元にとっては非常にいいことだったし、そういった方が中心になってやっていただけることが成功の一つの秘訣だろうと強く感じました。

とはいっても幾つか課題があります。一つは人の課題だと思えます。皆さんが同じ方向を向いていただくにはどうしたらいいか。思いを一つにして基金をつかっていった例もありましたし、また他人の目線で仕事をするといったような示唆もあったと思えます。また、リーダーの方が中心となって、ほかの人たちに宿題を出して引っ張っていくというような例もあったと思えます。いろいろなやり方があると思えますけれども、継続的にみなとの賑わいをつくっていくことになると、人が非常に大事です。ぜひあちこちで取り組まれていることを参考にさせていただいて、また国交省のほうでも支援事業もありますので、それも活用していただきながら人の輪をつくっていただくのが大事かと思っています。

二つ目はやはりお金のことだろうと思えます。どこでも資金繰りは非常に難しいことでもあります。安易にどこかからお金を借りたり予算化するというよりも、ぜひ皆さん地元の方にお金を出していただけるような雰囲気をつくるのがもちろん一番いいだろうと思えます。そのためには、やはりもうからなくてはいけないというコンセプトも一つ必ずあると思えます。どうすればもうかるのかというのはもちろんすぐにはわかりませんが、やはりそのコンセプトをきちっと持ってやっていくことかと思えます。

また一方で、安易というわけではないでしょうけれども、国交省だけではなく、あちこちの省庁あるいはあちこちで支援制度があります。そこをいろいろと努力しながら見つけていって、うまく組み合わせていくことも一つのやり方だろうと思っています。

今日はそういった例を幾つかご紹介いただきましたけれども、それぞれいろいろなことで努力されてここまで来られているということで、非常にうれしく思いました。こういった事例を今日お集まりの皆様方の地元のみなとでも参考にさせていただいて、みなとまちづくりに邁進していただけるとありがたいと思います。以上です。ありがとうございました。

橋間 どうもありがとうございました。非常にいい締めくくりをしていただいたと思います。時間の関係で十分な議論ができなかったかと思いますが、ぜひとも第2回の研究会以降に今日の残された課題をまた議論していきたいと思っています。ぜひとも皆様方、これからみなとまちづくり研究会をどういうふうに進めたらいいかについて、私ども事務局のほうにご意見を寄せていただければと思います。お願いいたします。

それでは、これでみなとまちづくり研究会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

（了）